

標準的なカリキュラム案における言語及び言語習得についての考え方について(案)

◎標準的なカリキュラム案（特に「生活上の行為の事例に対応する学習項目の要素」において能力記述、場面をまず取り上げる並べ方自体や「実践例（活用例）」、「教室活動の方法の例」）に以下の考え方が反映されている。

- ①生活基盤の形成を重視，社会・文化的情報の提供
 - ・言語は，すべての人にとって生活する・生きるために不可欠なものである。
- ②対話による相互理解の促進
 - ・言語は，自らの思考力や想像力を高め，感情を表現する上で大切なものである。
- ③専門家・地域住民との協働を重視，学習者・支援者の主体性を重視
 - ・言語は，人との触れ合い，語り合い，学び合いに不可欠なものである。
- ④様々な伝達手段を用いての社会参加
 - ・言語は話し言葉と書き言葉から言語生活（環境）を形成している
 - ・日本語は，漢字を含む数種の文字表記体系により複雑であり，地域や個人に応じて社会参加に必要な読み書き能力を特定する必要がある。
- ⑤体験・行動中心の教室活動を推奨
 - ・言語は，その言語が使用されている生活上の必然性・必要性の中で習得されていくものである。
- ⑥地域や学習者の実情に応じた教育内容の選択と工夫を期待
 - ・言語習得（の過程）は，学習者の多様な側面（興味関心・学習スタイル等）にかかわるものである。
 - ・それぞれの学習者の特性（興味関心・学習スタイル等）にかかわるものである。
- ⑦実物やイラスト，写真を多用した指導を重視
 - ・言語による行動能力の獲得は，生活上の行為場面と密接に結び付けた学習によって促進されるものである。
 - ・言語習得は，言語事項を形式的学習から切り離し，生活上の行為場面と密接に結び付けることによって促進されるものである。
- ⑧対話による相互理解の送信，体験・行動中心の教室活動を推奨
 - ・学習者の意識的活動が言語習得には大切である。主体的かつ自律的態度が日本語学習に対する自信と日本語力を高めるものである。
 - ・地域日本語教育は学習者自らが日々の生活を通じて学び続ける生涯学習と連結するものである。学習者に対し，教室を離れても主体的かつ自律的に日本語学習が続けられるという自信を持たせる教育でもある。